

お地蔵さんの物語

～お地蔵さんと地蔵盆のお話～



京都市

はじめに

京都の人にとってお地蔵さんや地蔵盆は小さい頃から自然に馴染んできたものであり、あまりにも身近すぎて、京都の人々はお地蔵さんや地蔵盆のことを改めて調べたり考えたりすることはほとんどしないようです。

しかし、お地蔵さんや地蔵盆の文化をこれからもずっと残していくためには、一度この文化についてしっかりと振り返って考えてみる大切ではないでしょうか。

そこで、この「お地蔵さんの物語」では、お地蔵さんのことやお地蔵さんと人々との関わりの歴史、そして地蔵盆の歴史や意義等について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



きょうと 京都では多くのところでまいとし 毎年夏休みの終わり頃にじぞうぼん 地蔵盆があります。

これからお地蔵さんや地蔵盆のことを皆さんにお話しします。よろしくね。

お地蔵さんの前身

今からおよそ2500年くらい前，インドで
お釈迦様が仏教を開いたと言われています。

インドにおいて仏教が開かれるはるか昔
から信じられていた宗教において，大地
の恵みをもたらしてくれる地母神としてイ
ンドの人々から信仰されていた「プリティ
ヴィ」という名前の神様がいました。

この女神様がお地蔵さんの前身だと言わ
れています。



むかしむかしのまたむかし，インドには，
だい ち めぐ 大地の恵みをもたらす「プリティヴィ」と
いう女神さまがいました。この神様こそ，
お地蔵さんのぜんしん 前身だと言われています。

お地蔵さんの誕生

仏教では、お釈迦様から聞いた話をまとめた様々な経典がたくさん作られました。

お地蔵さんは、その中のいくつかの経典に「地蔵菩薩」として登場します。

* 地蔵菩薩が登場する経典として有名なものは「大乘大集地蔵十輪経」，「地蔵菩薩本願経」，「占察善悪業報経」などです。



今から、2500年くらい前にインドでお
釈迦様しゃかがぶつぎょう仏教を開きました。お地蔵さんは、
仏教のきょうてん経典の中で「じぞう地蔵ぼさつ菩薩」というぼさつ菩薩
さんとして生まれました。

菩薩さんと如来さん

仏教の経典においてお地蔵さんは「菩薩さん」として活躍します。菩薩さんは人間世界において衆生を救う菩薩行をするお坊さんです。

これに対して「如来さん」は大いなる悟りを開いて人間世界とは別に浄土世界をつくってそこに人々を導く仏様です。

地蔵菩薩，すなわちお地蔵さんは，人々の身近なところで皆を救うために今日も活躍されています。



お地蔵さんは、人々の身近なところで菩薩さんとして日々みんなを救うために活躍しているお坊さんです。

お地蔵さんがお釈迦様 から頼まれたこと

お釈迦様は、お地蔵さんに言いました。

「これから弥勒菩薩が如来になって衆生を救済するまでの56億7千万年の間、六道（天道，人間道，修羅道，畜生道，餓鬼道，地獄道）で苦しむ衆生を救ってほしい。頼みますよ！」



お釈迦様は、お地蔵さんに「これから長い間、いろいろなところで苦しんでいるすべての人々を救ってほしい」と頼みました。

六道輪廻とは

インドなどでは、人が亡くなると、生前のその人の行いによって天道、人間道、修羅道（嫉妬や怒りで争う世界）、畜生道（人間以外の動物の世界）、餓鬼道（餓えと渇きに悩まされる世界）、地獄道の六つの世界のどれかに生まれ変わり、それが永遠に繰り返されると信じる「六道輪廻」の思想があります。



人は亡くなると、^{てん}天の世界、^{せ かい}人間の世界、^{ちくしょう}畜生 = 人以外の動物の世界、^{どうぶつ}地獄の世界など六つの世界のどれかに生まれ変わるという考えがあります。

お地蔵さんの誓願

お地蔵さんは、お釈迦様から受けた使命を果たすとともに、自らも人々を救うために様々な誓願を行い、それを実現するため活躍しています。

その誓願の主な内容は、五穀豊穡、家内安全、旅行安全、無病息災、火災・水害除け、諸願成就などです。



お地蔵さんは、すべての人々が^{こうふく}幸福になれるように願って様々な^{ちか}誓いを立て、それ^{じつげん}を実現するために^{かつやく}活躍しています。

お地蔵さんの姿

日本のお地蔵さんは、多くの場合次のような姿をしています。

- 地味な「僧侶の姿」
- 右手に持っている「錫杖」は環のついた杖で魔除けの道具
- 左手に持っている「宝珠」は宝を生み出す珠で病苦を取り除き願いを叶える
- 「赤いよだれかけ」



お地蔵さんは、多くの場合、右手に「環かんのついた杖つえ」、左手に「宝を生み出すたま珠」を持って、「赤いよだれかけ」を付けています。

お地蔵さんの特技

お地蔵さんは、すべての人々を救うため
様々な特技を持っています。

- 六道の世界のどこにも現われる
- いろいろなものに変身できる
- 人々の苦しみを代わりに受けてくれる
- 悪いものを払ってくれる
- 人々の様々な願いを叶えてくれる



お地蔵さんは、すべての人々を救い、そ
の願いをかなえるために様々な「特技」を
はつき^{とくぎ}発揮します。

インドから中国へ 渡ったお地蔵さん

お地蔵さんは、7世紀頃に大乘仏教の経典とともにインドから中国に渡ったと言われています。

それから中国では数百年の間、お地蔵さん信仰が盛んでしたが、その後は衰退しました。

*中国にもお地蔵さん信仰は残っていますが、お地蔵さん信仰が広く残っているのは日本だけだと言われています。



お地蔵さんは、7世紀ごろにインドから
ちゅうごく中国に渡ってかつやく活躍しました。

日本にやってきた お地蔵さん

お地蔵さんは、およそ奈良時代には中国から仏教の経典と共に日本にやってきていたと言われています。

その当時は、仏教を学ぶお坊さんの間でしか、お地蔵さんのことは知られていなかったそうです。



お地蔵さんは、^なら^みに^や都があつた頃に日
^{ほん}本にやってきました。

皇族や貴族の地蔵信仰

平安時代中頃から皇族や貴族の間で、地蔵信仰が始まったと言われています。

当時は、阿弥陀如来や観音菩薩の信仰と合わせて地蔵菩薩が信仰され、以後、地蔵菩薩像や地蔵堂などがつくられました。



京都に都が遷った平安時代の中頃には、
皇族や貴族の人々のお地蔵さんが信仰
されるようになりました。

民衆のお地蔵さん 信仰のはじまり

平安時代末期頃から民衆のお地蔵さん信仰が始まったと言われています。

この時期からお地蔵さんに関わる説話（「今昔物語集」など）がたくさん作られていきました。



平安時代の末頃からは一般の人々もお地蔵さんを信仰するようになり、「今昔物語集」など、お地蔵さんの説話がたくさん作られました。

『今昔物語集』中の 地蔵説話

今昔物語集にはお地蔵さんに関わる32の
説話が収録されています。

主な内容は、お地蔵さんが、現世で人々の
危機や命を救ってくれる話や現世で願い
を叶えてくれる話、お地蔵さんに出会った
人が改心する話や往生する話、お地蔵さん
が死んだ人を蘇生させる話や地獄に行った
人を助けてくれる話などです。



こんじゃくものがたりしゅう

今昔物語集には、お地蔵さんがいろいろ
なところで人々を救う様子を描いた32の話
が書かれています。

その他の説話に登場 するお地蔵さん

お地蔵さんは、全国で作られた多くの説話の中で様々な名前のお地蔵さんとして活躍しています。

- 勝軍地蔵
 - 看病地蔵
 - 田植え地蔵
 - 水引地蔵
 - 身代わり地蔵
 - 延命地蔵
 - 腹帯地蔵
 - 子育て地蔵
 - 子守地蔵
 - 油掛け地蔵
 - 縛られ地蔵
- などなど



田植え地蔵



しば
縛られ地蔵

多くの説話には、勝軍^{しょうぐん}地蔵、田植え^{たうえ}地蔵、子育て^{こそだ}地蔵などいろいろなお地蔵さんが登場^{とう}して活躍します。

地蔵講の流行

平安時代末期から鎌倉時代を中心に六波羅蜜寺や祇陀林寺などで「地蔵講」が行われ地蔵信仰が民衆に広まっていきました。

この地蔵講の様子は「今昔物語集」などに描かれています。



平安時代の終わり頃から、^{ろくはらみつじ}六波羅蜜寺などのお寺では「^{じぞうこう}地蔵講」が行われ多くの人々が集まりました。

地獄とお地蔵さん

鎌倉時代になると「末法思想」が広がり、地獄に行った人を救ってくれるお地蔵さんの信仰が広がっていきました。

地蔵菩薩は地獄では閻魔大王になって人々を救うという話も広がったと言われています。



^{かまくら}^じ^{だい}鎌倉時代になると、亡くなった人々は地獄^{じごく}に行くと思われようになり、地獄で人々を救ってくれるお地蔵さんの信仰が広まりました。お地蔵さんは、地獄では閻魔^{えんま}大王^{だいおう}に変身^{へんしん}して人々を救^{すく}うという話も広がりました。

末法思想とは？

お釈迦様が入滅した後、およそ1500年くらい経過するとお釈迦様の教えが廃れた「末法の世」になり、人々は仏教の救いを得られないで苦しむことになる信じられていました。これが「末法思想」です。

日本では、平安時代末期(1052年頃)から「末法の世」になったと信じられていました。



平安時代末期からはお釈迦様の教えが消えてなくなってしまう「^{まっぼう}末法^よの世」となり、人々は仏教の救いを得られなくなると信じられていました。

武士の地蔵信仰

南北朝期から室町時代にかけて、武士の間にも戦いや煩惱などに勝利することを願って勝軍地蔵等の地蔵信仰が広まりました。

特に足利尊氏の地蔵崇拝は有名です！

＊勝軍地蔵については、清水寺の創建に功績があったとされる坂上田村麻呂の東北での戦いを勝利に導いた勝軍地蔵の逸話が有名です。



むろまち じ だい 室町時代頃には ぶ し 武士の間でもお地蔵さんが信仰されるようになりました。

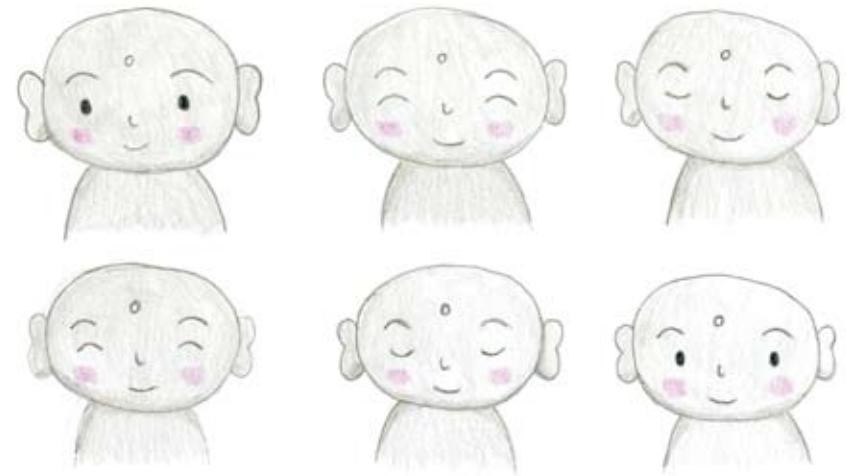
六地藏信仰と 六地藏めぐり

室町時代になると六地藏信仰が広がり、六地藏めぐりもされていたようです。

江戸時代の初めごろから、六地藏めぐりが盛んに行われるようになったと言われています。

六地藏の起こりは、一説によれば、平安時代に活躍した小野^{おののたかむら}篁が地獄で出会った地藏の姿を六体の地藏像としてつくり、宇治の六地藏に置き、後にそれを京に通じる街道の入り口に移したのがはじまりと言われています。

＊京都では8月22日・23日には今でも「六地藏めぐり」が行われています。



平安時代に小野^{おののたかむら}篁という人が地獄で出会ったお地藏さんの姿を覚えていて六体のお地藏さんの像をつくり、それが後に京都に出入りする街道^{かいどう}の入り口に置かれたという話が広がり、六地藏信仰や六地藏めぐり^{ろくじぞう}が行われるようになりました。

小野篁と閻魔大王と お地蔵さん

小野篁は、平安時代前期に活躍した国の役人（参議）で、一説では身長180センチ以上の大男であったとも言われていて、スポーツ万能、政務、漢文、和歌、書等の才能も抜群だったと言われています。

そのようなことなどから、篁は、普通の人では考えられないような能力を持っているという話が広まり、六道珍皇寺の井戸と地獄を行き来し、閻魔大王に仕えていたとか、地獄でお地蔵さんに出会ったというような逸話が生まれたと考えられています。



小野篁は、平安時代前期に活躍したスポーツも^{がくもん}学問も^{しごと}仕事も^{げいじゅつ}芸術もなんでもできるスーパーマンであり、地獄へ行くことができたという話が広まったそうです。

賽の河原地蔵和讃

昔は、小さい頃に亡くなった子供は成仏できないという考えがあったと言われています。

そのような子供を救ってくれるお地蔵さんの役割が強調され、江戸時代に普及した「賽の河原地蔵和讃」では、幼くして亡くなった子供が賽の河原でこの世の親を慕って小石を積んで塔を造ろうとするが、地獄の鬼が現れて鉄棒で崩してしまうため、地蔵菩薩が現れて子供を救う様子がうたわれています。

お地蔵さんの「赤いよだれかけ」は自分の子供をお地蔵さんに見つけてほしいという親の願いのあらわれだとも考えられています。



^{えどじだい}江戸時代には、小さい頃に亡くなった子供をお地蔵さんが守ってくれるというのが話が広がりました。

京都の地蔵信仰の広がり 1 ～火除け地蔵

江戸時代の京の町では愛宕山の火伏の神の信仰とともに辻々に「火除け地蔵」が置かれていたという記録があります。

*現在でも京都では火除け地蔵を祀っている町内があります。



火除け地蔵

江戸時代の京都では、^か火^じ事から町を守ってくれる「^ひ火^よ除^じけ^{ぞう}地蔵」がたくさん置かれてたそうです。

京都の地蔵信仰の広がり 2 ～各町の入り口に置かれた お地蔵さん

江戸時代には、通りの両側にできていた町（両側町）の入り口には木戸があり、その近くには町内に悪いものが入ってこないようにお地蔵さんが置かれていたと言われています。

*江戸時代には白川の上流で花崗岩がたくさん採取されたことも京都でお地蔵さんの像がたくさん作られた理由の一つと言われています。



江戸時代の京都の各町内の入り口には木戸きどがあり、その近くにお地蔵さんが置かれて町内を守ってくれていたそうです。

地蔵盆のはじまり

地蔵信仰の広がりの中で、江戸時代のはじめには京都の各町内で「地蔵祭」が盛んに行われるようになったと言われています。

明治初期の廃仏毀釈の際には各町内のお地蔵さんの仏像も廃棄され地蔵祭ができなかった時期がありましたが、その後「地蔵盆」として復活しました。



江戸時代には「^{じ ぞうまつり}地蔵祭」が盛んに行われるようになり、明治時代には「^{めい じ じ だい}地蔵盆」として行われるようになりました。

地蔵盆の行事

地蔵盆で行う主な行事は次のとおりです。

- 僧侶の読経
- 数珠くり（数珠回し）
- ご詠歌
- お地蔵さんのお化粧
- お菓子配り
- 福引
- ふごおろし
- 盆踊り
- その他（一式飾りなど）

＊地蔵菩薩の縁日は8月24日なので、最近では地蔵盆はその日の前後の土日に行われることが多いようです。



地蔵盆では子供も大人も^{さんか}参加するいろいろな^{ぎょうじ}行事が行われます。

地蔵盆は京都以外でも行われているの？

地蔵盆は、主に近畿圏の地域（京都、大阪、兵庫、滋賀、奈良、和歌山、福井等）と中部地方の一部で行われています。

一説によれば京都の地蔵盆の風習が近隣に伝播したのではないかとされています。



地蔵盆は、主に京都を中心とする^{きん き ち}近畿地方^{ほう}で行われているほか、^{ちゅう ぶ}中部地方^{いち ぶ}の一部でも行われています。

地蔵盆はなぜするの？

地蔵信仰の歴史や地蔵盆行事からみたとき、地蔵盆を行う理由としては、

- 町内の安全祈願のため
 - 人々の安全祈願のため
 - 子供の安全祈願のため
 - 人々の諸願成就のため
 - 町内の人々相互の親睦を深めるため
- などが考えられます。



地蔵盆は、町内の^{あんぜん}安全、子供の安全、人々の安全、町内の人々の^{しんぼく}親睦などを願って行われています。

お地蔵さんの物語の 終わりに

お地蔵さんは、子供だけでなく、すべての人々の安全を守り、願いを叶え、病気等の苦を身代わりに受けてくれる有難い存在だと言われています。

そして地蔵盆は、そんなお地蔵さんを囲んで、町内の安全、子供を含む町内の人々の安全や無病息災などをお祈りする大事な伝統行事です。

明治初期の廃仏毀釈により地蔵祭ができなかった時期がありましたが、伝統文化を絶やしたくないという地域の皆さんの熱い思いにより各町内で「地蔵盆」が復活し、それが現在でも続いています。(右に続く)

この機会に、このようなお地蔵さんや地蔵盆の文化の意義を改めて見つめ直し、明るく楽しく安心安全で心の通い合う地域社会を皆で実現したいものですね！

これで、お地蔵さんの物語を終わります。



お地蔵さんや地蔵盆をこれからも大事にして、^{あんしんあんぜん}安心安全で心の^{かよ}通い合う楽しいまちを皆でつくりましょう。

あ と が き

東山区では、「地域の魅力再発見」と称して、区内の知られざる遺跡を訪ねる「まち歩きツアー」や、区内にたくさんある「お地藏さん」についての講演会等を実施してきました。

そんな折、次世代へ継承すべき貴重な民俗行事であるとして、平成26年11月に、「京の地藏盆ー地域と世代をつなぐまちの伝統行事」が“京都をつなぐ無形文化遺産”に選定されました。

そこで、この機会にお地藏さまのことをより多くの方に知っていただけるよう、お地藏さんや地藏盆の歴史と意義などについてわかりやすく紹介する冊子を作成することとしました。

この冊子は、大人の方だけではなく、地域の伝統文化やまちづくりの未来の担い手であるお子さまたちにもお読みいただけるよう、見開きの左側を大人向け、右側をふりがなと親しみやすいイラストのついたお子さま向けのページとしました。

この冊子をお読みいただいた皆様が、お地藏さんや地藏盆の歴史や意義について理解を深めていただき、今後も京都の誇る「地藏盆」という素晴らしい文化が地域で継承されていくことの一助となれば幸いです。

なお、お地藏さんのイラストについては、京都女子大学家政学部生活造形学科の江口ゼミ生3回生の皆様にご協力いただきました。ありがとうございました。



発 行	東山区役所地域力推進室
イラスト協力	京都女子大学家政学部生活造形学科 江口ゼミ3回生の皆さん
問 合 せ	東山区役所地域力推進室 ☎075-561-9105



平成27年3月 発行
京都市印刷物第 263228 号